

こどもがしるべき

びと てがみだいに コリント人への手紙第二



パウロがコリント教会に送った手紙のうち、2通の手紙が新約聖書に記録されました。コリント人への手紙第二は、その2通目の手紙です。

パウロは、コリント市にコリント人への手紙第一を送ってすぐに、教会の状況はいまだに良くなっていないという知らせを聞くようになりました。そのため、パウロがコリント教会を訪問しました。ところが、信徒は、自分たちでは分からない理由によって、完全には悔い改めなかったのです。

エペソに戻ったパウロは、コリント教会の信徒たちのことを考えながら「涙の手紙」を送りました。その結果、ほとんどの信徒が悔い改めるようになりました。しかし、自分の益となることのために、パウロの使徒職について認めないで「他の福音」を伝える偽りの使徒がいました。このとき、パウロが使徒の権利を確立することと、信徒たちが悔い改めることを願う思いから、コリント人への手紙第二を書くようになりました。

コリント人への手紙第二の内容は次のとおりです。

最初に、パウロの使徒職を疑う人々に関して、答えを記録しました。使徒の本質は、神様と信徒、信徒と信徒を和解させることであることを知らせるためでした。また、誤解されながらも、忍耐しながら、和解させようとする自分がまことの使徒であると話しました。

二つ目、難しいエルサレム教会の信徒のための救済献金をすすめました。献金の理由と益になることを記録して、教会間で緊密な疎通をすることと助け合うことを強調しました。

三つ目、パウロの使徒職と自分の教訓を受け入れることを強調しました。パウロの使徒権に対して悪意をもって疑う者を厳重に扱うよう警告しました。さらに、パウロの教訓を受けて悔い改めることを強調しました。

福音のために苦難と死の危機にあったパウロも、信徒に誤解されました。それだけでなく、人々に疑われ、憎まれる時がありました。しかし、パウロは、自分の生活を通して具体的な証拠を見せながら、使徒としての召命と献身に対して、力強く公然と語りました。

福音伝道者として生きるレムナントも、ときどき誤解されて苦しい目に会うことがあります。そのときごとに失望しないようにしましょう。パウロのように、ただイエスだけを誇って、毎日、瞬間ごとに、私の中で生きておられる神様の証拠を見るレムナントになりましょう。